

令和元年度第1回北海道立帯広美術館協議会議事録

- 1 日 時 令和元年10月2日(水) 13時30分から16時10分まで
- 2 会 場 北海道立帯広美術館 講堂
- 3 出席委員 宮原委員(副会長)、東海林委員、吉田委員(会長)、原田委員、大河原委員、土井委員、高木委員、佐川委員、牛木委員(計9名)
(※ 欠席3名、宮澤委員、武田委員、持田委員)
- 4 事務局 館長 野崎 弘幸、副館長 遠藤 新理、学芸課長 福地 大輔、総務課主査 佐藤 朋和、総務課主任 西邑 有哉(主任学芸員 藺部 容子、学芸員 野田 佳奈子 欠席)
- 5 傍聴者 なし
- 6 議 事

議事に入る前に、館長挨拶、委員及び美術館職員紹介、展覧会鑑賞を行った後、会長及び副会長を選出し、会長の議事進行により議事に入る。

- (1) 平成30年度事業の実施状況及び美術館評価結果について
- (2) 令和元年度事業の運営状況及び美術館評価(目標指標)について
- (3) その他

アートギャラリー北海道の進捗状況

- (4) 協議・意見交換

7 会議記録(議長:吉田会長)

- (1) 事務局の説明について

議 長: コレクションの活用状況を「d」と評価したのは厳しいのではないのでしょうか。「しなかった」のか「できなかった」のでしょうか。

事 務 局: 両方の側面があります。昨年度は他館からの申し出が少なかったことや帯広美術館からの働きかけを行ったが至らなかったという状況でありました。今年度は機会が増えており、この後説明するアートギャラリー北海道で詳しく説明します。

議 長: 他館に貸し出した場合、何か対策をしなければならないと思いますが、その分の経費がかかるのではないのでしょうか。

事 務 局: 貸し出しの条件として温湿度、防虫、防かびなど設備が整っているところへ貸し出しを行っているので問題ありません。

- (2) 協議・意見交換

議 長: これまでの説明を含め、ご意見、ご質問等伺います。帯広美術館の活性化や道東地域の文化振興の発展という観点から、美術館の役割に期待することや、今後、このような取組をして欲しいということなど、何でも結構でございますので、ご意見などを頂ければと思いますが、いかがでしょうか。

委 員: 平成30年度の教員研修について、公募での参加者はいなかったのでしょうか。

事 務 局: 公募したが、3年次研修の5人の参加となりました。

委員：公募はどのような方法で行っているのでしょうか。

事務局：十勝教育局を通じて各学校へ募集要項を配布しています。

委員：キャンパス・パートナーシップで教育大釧路校の利用者が13名と少ないが個人で来る方法しかないのでしょうか。

事務局：団体での利用は道立釧路芸術館となっており、大学としての団体利用は無い状況である。

委員：体験型デジタルアートなどは今後も計画しているのでしょうか。

事務局：昨年度の協議会での意見やアンケートなど、親子で楽しめる展覧会の開催要望があがっていました。美術館を訪れた子どもが大人や親になったときに、また子どもを連れて美術館に来ることに繋がるため、積極的に考えています。

委員：高校生の来館者が少ないが、その対策は何か考えているのでしょうか。

事務局：小中学生の観覧機会は充実している一方で、高校生・大学生の観覧機会が少なく、事務局としても課題として考えている。大学生は管内的に絶対数が少ないが、高校生向けの教育普及事業が開催されていないという現状がある。今後、高校生にとって魅力ある事業内容を検討していく考えである。

委員：高校生の写真展や美術部の展覧会などを参考にしていったらどうでしょうか。また、毎週土曜日はコレギアラが無料となっていることを最近知った。そのことをもっとPRした方がよいのではないのでしょうか。高校生のロビーコンサートなども検討してはどうでしょうか。

事務局：ご指摘の通り小中学生の観覧が多いのにも拘わらず、高校生になったら来なくなっていることを課題と捉えている。高校生にとって魅力がある、例えばインスタ映えするような環境を整えるとか美術部以外の部活動を対象とした事業などを今年度から来年度に向けて、検討出来ないかどうか。

また、周知の仕方について管内高校長協会へのアクションが今までなかったようなので、今回の北齊展からPRし始め、その延長線上に高校生の来館者数増を期待している。

委員：ポスターやチラシなど拝見するが、遠方のためなかなか足を運べない。ポスターなどに掲載されている情報しかないのも、もっとマスコミを利用した広報などによりどのような展覧会が開催されているのかわかると良い。また、幼児を連れて遊ばせながら（託児をしながら）鑑賞できると、お年寄りから小さい子まで来館できるような美術館であるといいと思っています。

事務局：釧路新聞で月1回、帯広美術館の様子を知らせるコラム記事の連載を職員が書いている。また、FM釧路で月に1度ほど開催中の企画を紹介している。

託児については、特別展の展覧会期毎に1日ほど講堂を託児スペースとして利用し、キッズ・ミュージアムをしらかばの会との共催により開催している。年間のパンフレットや展覧会のチラシに関連事業として載せている。子どもたちを預かるだけでなく創作活動を行い、近々開催するのは「野菜版画」の体験ができるものとなっている。ただ、しらかばの会の協力により行っているものであり、人員の問題など毎週開催す

るということはなかなか困難な状況である。

議長：キッズ・ミュージアムは乳幼児までは預けられないでしょうね。

委員：小学校に入る前の小さいお子さんが主な対象となっており、昨年度は年5回開催し「託児と工作遊び」を行っている。展覧会期に1回というのは残念ですが、今のところはそれ以上望めない状況です。

委員：出張アート教室の評価において、小規模校での実施だったため、数値が下がり評価が下がったという説明があったが、大規模校・小規模校の分け隔て無く、評価が下がってもいいので小規模校に積極的に行ってほしい。

また、子どもの時に美術館に来るということを体験するというのは、長い目で見たとき、長いスパンでリピーターになってくれる可能性がある。チームラボに代表されるような子どもたちが足を運ぶような展示は非常に意味があるので、小学生・中学生の時に美術館に足を運んだ体験は生涯にわたって大切なこと。目先の来館者数にとらわれず、将来を担う子どもたちにすばらしい美術館に来てもらえるような展示をしていただきたい。

事務局：事務局としても定量評価は、数字が下がれば評価も下げなければならないのかという議論がありましたが、今後は意見を参考に進めていきたい。

委員：夏休み期間中に子どもが楽しめる展覧会を2年連続開催している。帯広に遊びに来たときに家族揃って楽しめるということが定例化し、毎年、夏の恒例事業となっていくと良いのではないかと考えている。松浦武二郎展や神田日勝などタイムリーな展覧会が近年続いており、そういったことが美術館への親近感にも繋がるので、来年度の展覧会にも是非、期待している。

また、大樹町酪農アーティスト展も無人ロケットの新しい動きなどと繋がって話題性があるのではないかと考えている。

議長：来年度はどのような展覧会があるのでしょうか。

事務局：会期を含めて調整中のため、次回の協議会の時にはお知らせできると思いますが、引き続き、地元の作家、特に若手の表現者の活動を紹介する機会は続けて行きたいと思っている。親子で楽しめる展覧会については、何らかの形で継続していきたい。

委員：毎年、学校に出前講座に来ていただいております、子どもたちは非常に喜んでおります。自分たちの視点にないような解説をしていただくと非常に貴重なものである。このことをどうやって広げていったら良いかをずっと考えている。以前は、美術の授業時数が多かったが、今では週1時間、年間35時間のため、こういったプログラムをきちんと計画していくためには、早い段階で提案が必要になってくる。帯広美術館の年間の展覧会の情報は、帯広市内の校長会で周知されるが、もっと具体的に校長会から各学校へ周知する、校長から美術教師に周知する、いろんな方法を使って浸透していくと良い。子どもたちにすばらしいものを見せ、それについて解説があるというのは、すごく良い機会であり、その印象は強く残る。

議長：校長会は毎月開催されるのでしょうか。

委員：毎月あります。

議長：来年度の美術館事業のお知らせは、いつ頃行うのがよろしいでしょうか。

委員：1月・2月

事務局：委員が言うように、解説を聞いてから観る場合、目から頭に入ってくるものは違ってくることを実感している。年度当初の十勝教育局で開催する校長会議を通じて小中学校の校長先生方には周知しているが、もっと効率的・実践的に周知していきたい。

委員：お盆の時期にチームラボを観に来たとき、行列が出来ていた。過去に東京の美術館に行ったときも行列が出来ており、並んで入ったがそれ以来であった。帯広でこういうことが起きるんだと感心しました。チームラボはもちろん親子連れが多かったが、若い人たちも結構多かった。小さい子どもを連れてる親御さんたちにはとても興味深く、東京に行かなければ体験できないものが帯広で開催されたことはとても良かったと思う。親子で楽しめる美術館というのが、今までの概念にあまりなかったのかなと思っているので、今後は今までの美術館のイメージにないところも取り入れてやっていただければと思っている。

出張アート教室という事業があるのをはじめて知った。昨年、網走で実施したということは、根室にも案内は来ているのでしょうか。

事務局：各教育局から市町村教育委員会を通じて参加希望校を募っている。道東地域は帯広美術館もしくは釧路芸術館が担当しており、根室地区でも釧路芸術館による開催実績があります。

委員：根室から美術館までなかなか来られないので、少ない人数かも知れないが、解説していただくと美術というものが身近に感じる事が出来るので、子どもたちにとってもいい機会になる。根室市教育委員会にも働きかけを行おうと思っている。小規模校で人数が少なく評価が下がってしまうかも知れないが、来ていただくとありがたいなと思っている。

事務局：補足になりますが、学校向け出張アート教室の他に道立美術館の事業として移動美術館を実施しており、道立近代美術館が中心となって、年2～3の自治体で開催しています。根室市は2007年に市民会館で展覧会を開催しております。

出張アート教室は違う土地、異なった環境、様々な学校規模などで解説することになり、学芸員にも大変勉強になるので、是非、応募していただければと思っている。

委員：昨年の魔法の美術館や今年のチームラボは、デジタルを駆使した親子で楽しむとても良い展覧会だったと思っている。以前の美術館では2年に1回、絵本展をやっていた。色んな所で読み聞かせが実施されているので、久々に絵本展を是非、是非、開催していただきたい。

小さい頃から美術館に足を運んでもらいたいということでしらかばの会としてもキッズ・ミュージアムや小中学生の無料招待事業を実施している。先ほども高校生の来館者が少ないという話がありましたが、無料招待事業を高校生まで広げることで来館者数が増えるのであれば、しらかばの会としても検討していかなければと思っているが、

予算が伴う話である。北海道の事業でも小中学生を無料にする事業が増えてきているので、その分を高校生の無料招待分に充てるのが出来るのかなと個人的には思っているのですが、しらかばの会の役員会などで今後の検討事業として考えていいのではないかと考えている。釧路美術館でも高校生の無料招待をやっていると伺っていますがどうでしょうか。

事務局：ボランティア団体による無料招待を行っています。

委員：年間、全ての展覧会を対象としているのでしょうか。

事務局：全てではなく、展覧会の性質を鑑みて中学生まで、高校生まで、大学生までというように使い分けています。

委員：小中学生の無料招待事業はしらかばの会が全国に先駆けて実施したもので、高校生に関しては今後検討し、裾野を広げていけたら良いと思っている。

事務局：釧路の場合、近くに教育大学があるので、そこに配慮している側面があります。

委員：しらかばの会も今後に向けて検討していこうと思います。

議長：絵本展について要望が出ましたので、ご検討いただけたらと思います。

事務局：親子向けの企画は開館したときから進めており、チームラボの陰にすっかり隠れてしまいましたが、2014年のムーミンの作者であるトーベ・ヤンソンの展覧会も大変好評いただき、その意味でも美術館に足を運ぶ入口としてのきっかけづくりになる大変重要なものと認識しています。

委員：コレクション・ギャラリーでもギャラリー・ツアーの解説は出来ないのでしょうか。

事務局：団体観覧でオリエンテーションを希望した場合に対応しており、他にはキッズ・ツアーで子ども向けの展示解説を行っている。今まで大人向けの解説は実施しておらず、需要があった場合にどういうことができるか考えていきたい。

委員：解説は鑑賞にあたってとても参考になり、理解しやすくなる。

事務局：解説と同じくらいに理解できるよう展示解説のパネルの充実を図っているが、こういった側面からの解説がほしいなど、要望や意見等があれば反映させていきたいと思っている。

議長：他に意見がなければ、事前に各委員に意見を伺っていましたが、欠席委員から意見がありましたのでここで紹介いたしまして、事務局から回答願います。

・帯広美術館の活性化について

HP アクセス数が 20 万件を超えた事は、人々の情報収集方法が確実に変わってきていると思われる。魅力ある（行ってみたくなる）HP 作成が必須。地域の学校や団体へのアピールを図り、帯広美術館にまず足を運んでもらうことを考える時間と人が必要なのでは。

・道東地域の文化振興の発展について

昨年の北海道 150 年事業アートギャラリー北海道「神田日勝と道東の画家たち」観覧者数は多くなかったが、地域の美術館が協力・連携することは大切だと思います。所蔵品を貸借するだけでなく、他の方法もあるのではと考えます。

・美術館の役割に期待すること

日常生活の中に「ゆったりとした気持ちで絵画を観る」ことが豊かな人生の一部となれたら。非日常ではあるけれど、美術館がハードルの高い場所と誤解されないように広報活動をしてほしいです。

・今後の取組（要望）

昨年、今年と子どもの夏休み期間に開催した展覧会の観覧者数も多く、評価が高いため、この時期に子どもと保護者が一緒に楽しめる企画を立てることが重要と思う。親（保護者）が子どもに見せたい、経験させたいと思う内容を企画・立案・実施していただきたい。

事務局：当館 HP は北海道庁のサーバーを使用することから、デザインや容量に制限があるため、思い通りに作ることができず、それを補完するものとして、手軽さや親しみやすさの面から Facebook を用いるなど、時代に即した対応を今後も継続していきます。

次に AGH においては、神田日勝記念美術館との相互割引の実施や他館と学芸員を相互に派遣しギャラリー・ツアーを開催したり、今回、ご覧になった若手アーティストの活動を紹介する「大樹町酪農アーティスト展」を開催しており、今後も所蔵品の貸借だけに留まらず、他館と連携を図っていきます。

また、美術館に気軽に足を運んでいただけるように、地域の方々により親しみを持っていただけるような広報活動に努めて参ります。また、委員の皆様におかれましても、今回配布しました招待券を活用いただき、広報活動を積極的に行ってくださいようお願いいたします。

最後に、親子で楽しめる展覧会をはじめ、年齢にとらわれることなく誰もが楽しめる展覧会の開催に今後も努めて参りたいと考えております。

議長：その他、意見等はありませんか。無ければこれで議事を終了させていただきます。

（議事終了）